

共享单车 のことなど

シェアサイクル

1年ぶりの天津は……黄色、ブルー、オレンジ、グリーン、色とりどりの自転車が行き交い、“共享单车（シェアサイクル）”の天下になっていました。繁華街や大通りを走る自転車のおよそ三分の一がシェアサイクルと言っていいでしょうか。現在、複数の会社がサービスを提供しており、各社オリジナルカラーの自転車が街を行き交い、通勤、通学、日常の買い物まで広い年代の人に利用されています。

いち早く名乗りを上げたのは、黄色の自転車が目印の“ofo 小黄车（オフオ）”。2年前に営業が開始され、“小黄”という愛称で呼ばれています。スマホでアプリをダウンロードして100元の保証金を払えば、すぐ使えます。まず、黄色い自転車を見つけ、アプリを開いてサドルのQRコードをスキャンすると、スマホ上に4桁の数字が出てきます。これがカギを開けるパスワード。カギを開けたら、サドルの高さを調節してOKです。使用後は、カギをかければその時間までの料金が計算されます。

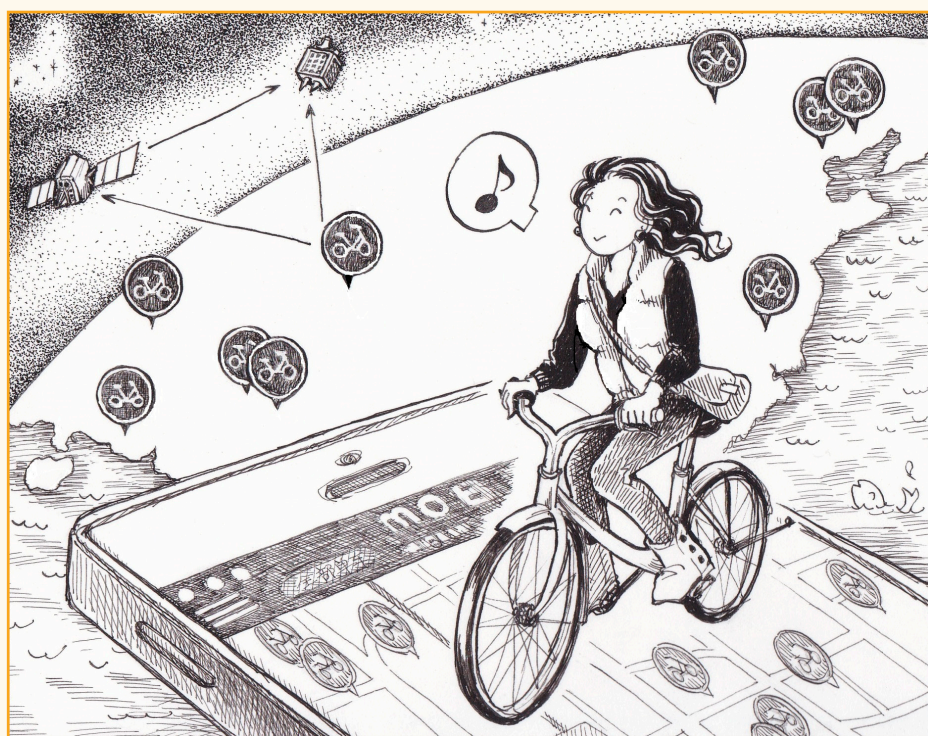
使用料金は、最初の1時間が1元でとっても経済的。キャンペーン中だと、10日間無料のお試し期間や1ヶ月の無料サービスがあったり、さらに運がよいとQRコードをスキャンした後、“红包（お年玉）”がもらえたりします。以前紹介した“红包”、こんな時にも使えるんですね！（バックナンバー第19回をご参考に！）利用者の中には複数の会社のアプリをダウンロードして、“小黄”が近くになれば“小绿”や“小蓝（青）”、“小白”と、選択肢を広げて利用している人もいます。

さらに便利なのは、自転車すべてにGPSが付いていること。アプリを開けば自分の近くにある空き自転車を見つけることができます。会社はこのGPSを使って、余っている自転車を足りない場所に補給をして数の調整をしたり、放置自転車を定期的に回収したりしています。シェアサイクルのマイナス面としては、自転車の放置以外に自転車の破損行為などがありますが、写メを撮って会社に連絡すれば対応してくれます。

会社としては、もちろん最初は投資が必要ですが、注目度も上がっているうえ、GPS搭載なのでユーザーの走行履歴から得られるビッグデータについても、これからの時代、大いに利用価値がありますね。

中国では新しいものの普及速度がとっても速い。これはすごいことです。“小黄”はすでに中国の20以上の都市に進出し、環境面、健康面でも効果が期待されています。マイカーやタクシーの利用は減るでしょうし、バスや地下鉄の混雑緩和にもつながりますね。イギリス、オーストリアなど海外9カ国にも進出しているそうです。先日日本の新聞にも出ていましたが、今年8月、オレンジ色の車体が目印の“摩拜单车（モバイク）”という会社が北海道で営業を開始しました。観光振興にもつながるので、歓迎されているとのこと。他にもシェアサイクルをめぐる日本国内いろいろな動きが出てきていますが、需要や受け入れ環境があった中国と異なり、苦戦を強いられるのではないかと見ている中国人アナリストもいます。日本ではどこまで広がるのでしょうか。この原稿が掲載される頃にはまた新しい展開があるかもしれませんね！

さて、この調子でさらにシェアサイクルが浸透していけば、今回のお話のような事件？は避けられるのでしょうか！



二环路¹ 暴发力案：

因堵车太久，有一车主终于无法忍受，
他打开车门，拿出一根长长的棒球棍，
路上所有堵车的人都吃惊地看着他，
只见他边骂边走到车前，
把地上的一只蜗牛² 敲得粉碎：

“我忍你很久了，
从西直门³ 就一直跟着我，
到复兴门⁴ 了你居然还把我超了！”

1 二环路 Èrhuanlù：北京で最も内側にある環状道路で、当初渋滞解消のために作られたが、現在は交通渋滞で有名

2 蜗牛 wōniú：カタツムリ

3 西直门 Xīzhímén：北京中心部の地名。二環路の北西方面にある

4 复兴门 Fùxīngmén：北京中心部の地名。二環路の西直門の南方約5kmの距離にある

*

二環路で殺人事件発生！

あまりの渋滞に、あるドライバーがついに堪忍袋の緒を切らした。そのドライバーはドアを開け、野球のバットをさげて車を降りた。ほかのドライバー達がびっくりして見ていると、彼はぶつぶつ言いながら車の前に立ち、そこにいる一匹のカタツムリを木っ端みじんに叩き潰した。「西直門から俺の車についてきてそれでもずっと我慢してたけど、復興門で俺を追い越すとは！！」